

筑後川の河川敷や周囲の野山にはつくしが至る所で顔をのぞかせ、久留米市内の多くの桜の木にはつぼみが膨らんできました。このところ不順な天候でしたが、今朝は晴れ渡り、爽やかな早春のこの佳き日にご来賓のご臨席を仰いで、本日ここに令和5年度の久留米工業高等専門学校の卒業式ならびに同校専攻科修了式を挙行できますことを、卒業生・修了生はもとより本校教職員一同まことに光栄に存じます。ご参列をいただきましたご来賓の皆様には厚く御礼を申し上げます。

本科卒業生 196 名ならびに専攻科修了生 37 名の皆さん、それぞれご卒業・ご修了おめでとうございます。皆さんは、本校が掲げる「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」という理念に基づいた教育課程を終えられてこの日を迎えました。15 歳からの 5 年とさらに 2 年間にわたる－（中にはさらに学校が好きだった学生さんもいますが）－青少年から大人に成長していく人格形成の重要な時期を、ここ小森野キャンパスで同年の級友らと喜怒哀楽を共にしながら勉学に励んで今日を迎えました。これまでに重ねてこられた研鑽と努力に深く敬意を表します。同時に卒業生・修了生の学修と成長を支えてこられた保護者の皆様には、高いところからではありますが、こころより深く感謝を申し上げます。

今日の卒業生が本校に入学した今から 5 年前の 2019 年を思い出しています。この年は平成 31 年として始まり、入学式から約 1 ヶ月後の 5 月 1 日に徳仁親王が天皇に即位されて令和元年となりました。新時代の始まりでした。7 月には、京都アニメーションがガソリンで放火されて従業員 36 名が亡くなるという痛ましい事件が発生しました。最近この事件の第一審

の判決が出たので、改めてこの事件の記憶が蘇りました。5年前の10月には消費税率が8%から10%に上がりました。11月になると中国・武漢市で原因不明のウイルス性肺炎が確認されたとニュースで初めて報道されましたが、その後新型のSARS-Corona Virus-2を病原体として急性呼吸器疾患などを引き起こす感染症 COVID-19 として瞬く間に世界に広がってしまいました。

このパンデミックによって、翌年の2月ごろから今年の5月までの3年以上の長い期間にわたって、途中で山や谷が何回もありましたが、感染拡大抑止のために我々の行動が様々に規制されて不自由な生活を余儀なくされました。特に人が集まることや会話への制限が厳しく、学校生活に大きな影響が出てしまいました。卒業・修了生の皆さんの在学期間の半分以上がこのパンデミック期間と重なり、長く級友や先輩、後輩との交流や共同作業が思うようにできず、懇親を広め深めることができなかつたと感じていることでしょう。さらに、高専祭をはじめとする様々な学生行事やインターンシップなどの校外活動が十分にできずに、在学期間の思い出を多く残すことができなかつたと残念に思っているかもしれません。

青春を思う存分謳歌できる高専での学生生活をフルスペックで楽しめなかつたのは残念ですが、それでも皆さんの前にはこれから前途洋々とした未来があります。医療の進歩や食生活、衛生環境の改善などによって我々人類の平均寿命は近年大きく延びて、日本では人生100年と言われています。皆さんの世代ではさらに長くなるでしょう。皆さんには平均して今までより4倍以上も長い人生が待っています。これからも前向きに人生を楽しむことを忘れずに歩んでください。皆さんにはそれができる素養を本校で培っていると私は確信しています。

パンデミックによる行動制限は無くなりましたが今でもその影響がまだ根強く残っているように思います。私が最も懸念していることは、みなさんの心の中です。みなさんのように成長が著しい時期に3年以上も様々な行動規制がなされたことによるみなさんの行動様式の変化です。感染予防を理由にマスクをつけ続けて素顔がわからないために、新しい出会いがあってもその後の関係が希薄になっていないでしょうか。家族や周りの親しい友達と会話することも遠慮や躊躇しがちな傾向が残っていないでしょうか。周りのクラスメートや友人に直接話さなくても、今はSNSがあるので、物事を伝えるだけだったらそれで十分かもしれません。でも直接素顔を見ながら話すのとそうでないのとは、自身の気持ちや物事の伝わり方、正確度が違います。

黙って一人でいると何事も起こらないし他人への気遣いも無用ですから、心理的には楽でしょう。しかし、人間は楽に慣れてしまうと、そこからは中々抜け出すことはできません。一旦、自動車などの便利な道具に使い慣れてしまうと、それを手放すことができなくなるのと同じです。それが地球環境保全の真の課題でもあります。

そのような静かで楽な状態は平穏ですが幸せであるかといえば、必ずしもそうではありません。楽であることと幸せであることは全く別物です。幸せは自ら何かに取り組んで、その成果が少しでも見えた時に感じるすることができます。すなわち、楽かどうかは止まっている静的な状態であるのに対して、幸せかどうかは動きがある動的な活動によってもたせられます。人間は動物です。動くことが本性で、それによって幸福感が得られるのがごくごく自然なのです。

みなさんはお金持ちになれば幸せな人生が送られると思っているかもしれませんが、もちろんお金持ちは羨ましい状態ですが、日々のニュースを見ていると、裕福な家庭でもあるいはお金持ちの有名人でも、不幸であったり不幸な事件が起こったりしています。一方、貧乏という静的な状態であっても、多少の不自由はありますが、毎日幸せに過ごしている人はたくさんいます。

少し脇道にそれましたが、周りとの日常のコミュニケーションを面倒だと思ってしまって一人で楽をしていると、自らを不幸にしているかもしれないということを意識して、積極的に周囲の人たちと良い関わりを築きながらこれからの人生を歩んでください。

ところで、高等専門学校は1962年にわが国独自の高等教育制度として設立され、一昨年の2022年が高専制度創設60周年でした。昨年度はそれを記念する様々な取り組みや行事が行われ、高等専門学校のこれまでの歩みと発展が総括されて将来に向けた新たな方向性も示されました。それを端的に表すものが、高専制度創設60周年記念のキャッチフレーズです。それは「**たゆまぬ挑戦、飛躍の高専!**」です。このキャッチフレーズは高専生ならびに高専で勉強した卒業生の全員に当てはまるでしょう。60周年を迎えて改めて高専の存在と意義が見直されており、今高専には多くの方々から強い期待が寄せられています。それはすなわち、高専の卒業生である皆さんに熱い期待が寄せられていることに他なりません。

20世紀において人類はそれまでに得てきた科学的知見を基に大きく文明を発達させて、豊かな近代社会を創り上げました。20世紀は右肩あがりの成長を基軸とするものでしたので、

ほとんどにおいて万人にわかりやすい目標に向かってまっすぐ進むことができました。ロケットの打ち上げで大きな推進力が必要なのは最初だけで、しばらくするとブースターロケットは切り離されて重力などを利用して予定の軌道上を進んで月や火星などに向かって行くのに似ています。宇宙空間はほとんど障害物がなくその先の軌道が予測可能だからできることです。少々乱暴ですが、ロケットの打ち上げ推進力を学校で培った専門性と見做すなら、卒業後もその延長線上で活躍し続けることに例えられるかもしれません。

しかし、21世紀に入ると、文明社会の営みによる地球環境への影響や増え続けるエネルギー消費など、負の側面が顕になってきました。さらに、情報化社会の発達によって、人類がこれまで長年かけて構築してきた様々な社会システムや生活様式が大きく変わろうとしています。最近のAIは人類の知性が及ばないところを補うまでに発達してきています。今後さらに発展することは間違いありません。加えて、人口増加と地球規模の人的交流の拡大によって、COVID-19のようなパンデミックの危険性が高くなっており、人類社会の発展に大きな影を落としかねません。さらに、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルのパレスチナ・ガザ地区への攻撃とそれに伴う中東情勢の不安定化のように、第2次世界大戦後に築かれた世界秩序が大きく揺らぎ始めています。

これから皆さんが活躍する社会の発展や展開は、科学技術だけでなく様々な社会情勢の影響が複雑に加わって予測が付きません。高度な文明社会を支えて新たな展開を切り開く工学の内容や位置づけについても、これからの展開は予測不能です。すなわち、工学そのものの目的や要素技術の使い道が従来のようにはっきりと決まってなく、時とともに大きく変わっ

ていくことでしょう。目的志向に縛られた価値観から新たな価値の創造が求められています。

先ほどのロケットに例えるならば、最初に決められた目的地に向かって多少の微調整はあってもひたすら進み続けるのではなく、思わぬ障害物の出現や最初の目的地とは違う方向に向かわねばならなくなるなど、宇宙での予期せぬ状況の変化に即応して、ロケットの軌道修正がその都度に必要になるということでしょう。

でも、これは皆さんの前には新たな挑戦のチャンスが好機として待っているということです。単なる技術はすぐに真似されて追いつかれてしまいます。挑戦することが専門家に求められ、それが皆さんの幸せにつながるということでしょう。

高専では工学の理論と実践の両方をバランスした専門教育に加えて、実験・実習・コンテストを多用した実務教育に注力しています。高専卒業生の皆さんは身につけた知識や技術を、目の前にある課題に実践応用する経験を少なからず持っています。そのことはこれからの新たな未知の課題と対峙した時や新たな価値を生み出すのに大きな力になるでしょう。

実はこのような目的が定まらない専門的素養が本当の意味の「基礎」と言われるものです。

「基礎」とはある分野の序の口「入門」とは違います。基礎とは何にでも使える、利用できる知識であり、素養なのです。「基礎」はそれだけでは意味がありません。使われて何かに応用して初めて意味を持ちます。知識の実践応用の経験に富む皆さんは、「基礎」たる素養が豊かだということです。人によって経験は違いますから「基礎」となる素養も違ってきます。

それぞれが異なる「基礎」をもつ、これが専門家としての「個性」です。皆さんは高専の卒業

生・修了生であることに自信と誇りをもって、いい意味のプライドとして前向きに意識してこれから存分に活躍してください。

卒業生・修了生の皆さん、勉強はこれで終わったわけではありません。むしろこれから社会に出てから学ぶことの方が多いいことでしょう。それはすでにもっている「基礎」の新たな実践応用の場合もあるし、大きな軌道修正に必要な推進力を生み出すために新たな知識の獲得とその応用での場合もあるでしょう。

私は、大人とは自分の使命、すなわち社会人として他人との関係の中でやるべきことと、自分の好きなことが一致している人が大人であると常々考えています。これまでは自分がしたいことを探してと良く言われていたかもしれませんが、これからはしたいこと、好きなことではなく、自分がしなくてはならないことを探して、それを自分の好きなことにしてください。そのためには、くれぐれも健康には留意して、新しいことを貪欲に吸収して、自らの使命の上に自分の夢を描いて、その実現に努力してください。それが人間的な幸せをもたらす人生です。

工学の世界に国境はありません。多かれ少なかれ世界と繋がっています。世界に広がった社会の中で皆さんが活躍されていけますよう、心より願っております。皆さんのご健勝をお祈りいたします。

以上をもって令和5年度の本校卒業式・修了式における校長告示といたします。

令和6年3月15日

独立行政法人 国立高等専門学校機構 久留米工業高等専門学校長

松村 晶